

史跡赤穂城跡

二之丸北城壁の発掘調査成果

令和4年3月 赤穂市教育委員会

二之丸北城壁は、明治 25 (1892) 年に起きた千種川大水害に伴う復旧用資材として、根石を残してほぼ撤去されていました。今回の発掘調査は、この石垣を復元するにあたり、遺構の残存状況や石垣の形状を明らかにする目的で実施したものです。

(1) 1区 (二之丸北横矢柵形周辺調査区)

二之丸北城壁の形状を明らかにする目的で設定した調査区で、石垣から出っ張るようにつくられた**二之丸北横矢柵形**を含んでいます。

調査の結果、当時の地面は大きく削られ、無くなっていたことが判明しましたが、横矢柵形の背面に**栗石列**を確認することができました。これは二之丸北城壁背後の**腰石垣** (土留め石垣) を築くための根固めの可能性があります。

ふつう、石垣の背後は土の法面でおさめますが、古絵図 (図 3) によるとこの周辺には番所 (門番の常駐する建物) があり、土地を広く確保するために腰石垣を築いていた可能性が高まりました。

(2) 2区 (二之丸門周辺調査区)

二之丸北城壁から二之丸門周辺の形状を明らかにする目的の調査区です。

調査の結果、1区と同様、当時の地面は大きく削られていたことがわかりました。しかし、当時の地面より下に据えられた**二之丸北城壁の根石**が残されており、東の二之丸北横矢柵形からつながる二之丸城壁が連続して検出され、石垣はさらに西側 (道側) に延びていることがわかりました。

また、調査区の南側では**二之丸門**に接続していたと思われる石垣が発見され、二之丸門の位置についても、おおむね推定できる情報を得ることができました。



図2 二之丸北城壁と発掘調査位置



図3 古絵図と発掘調査区域

「赤穂城内侍屋鋪間数之圖」翻刻
(飯尾精 1993『大石神社蔵赤穂城請取文書』所収)



図1 石垣や門の形状・規模を記した古絵図
(『浅野家時代赤穂城之図』)

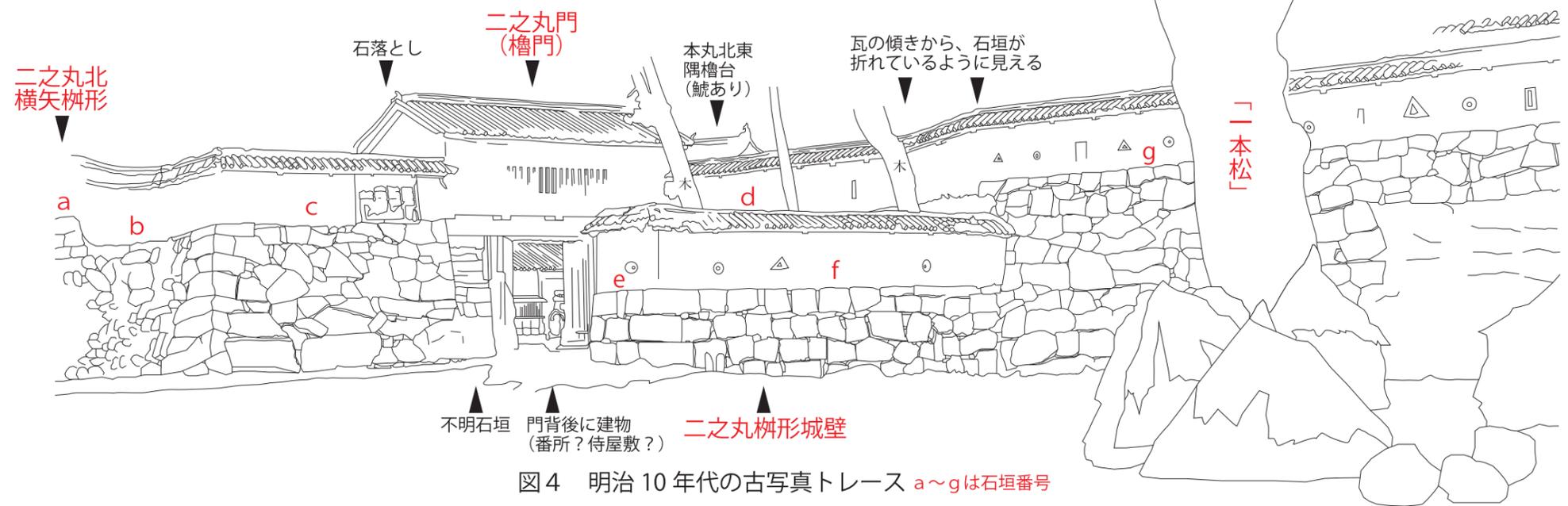


図4 明治10年代の古写真トレース a~gは石垣番号

発掘調査の結果、東方（図の下方）から連続する**二之丸北城壁 b の根石**を検出できたほか、それに接続した**二之丸外堀護岸**を確認することができました。

古絵図や古写真から考えると、二之丸北城壁 b はこの調査区より西側（図の上方）ですぐ角をもって折れ曲がり、1 ページで示した**二之丸北城壁 c** とならなければなりません、今回は見つけることができませんでした。

一方で、**二之丸門推定位置周辺**にも石垣の根石が発見されました。この石垣は、3 ページで示しているように二之丸門に接続する城壁であった可能性が高いと言えます。

二之丸北城壁 **c**



二之丸外堀護岸裏込

二之丸外堀護岸

二之丸門に接続する城壁？
(埋没石垣再利用？)

埋没石垣

あぜ
(黒色落ち込み)

埋没石垣裏込
(丸栗石範囲)

(廃棄土坑)

あぜ
(黒色落ち込み)

(廃棄土坑)

二之丸北城壁裏込

二之丸北城壁 **b**

(二之丸門推定位置)

ただし、江戸時代の地面の高さが推定で標高 1.5m だったのに比べ、現在は 0.3 ~ 0.5m 程度まで石材を持ち出すために掘削されているため、**門に関する遺構は明治時代に破壊されてしまっている可能性が高い**と考えられます。

なお、これらの石垣に壊されるように、浅野家の赤穂城以前の城壁と思われる「**埋没石垣**」も確認しています。埋没石垣は、石垣背後の裏込めに丸い石材が多いのが特徴で、池田家時代に築かれたものの可能性があります。

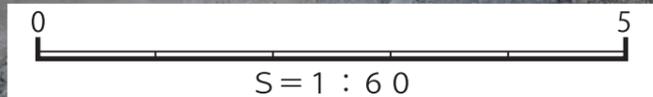
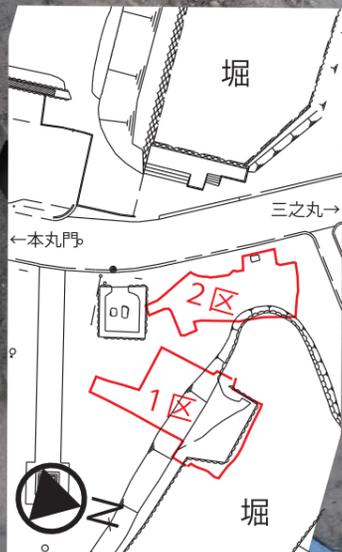


図5 2区全景 オルソ図

